

水府流水泳道場跡  
(城東小学校 HP より)那珂川  
(城東小学校 HP より)徳川斉昭 (烈公)  
(弘道館 HP より)

## あの日のあの川 リレー日記 ～第5話～



あの日のあの川  
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

### 第5話主人公 金子 貴洋

(筑波大学大学院 システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻 修士1年  
白川 (直) 研究室『川と人』ゼミ)  
(□川ガール・■川系男子)  
(出身地を流れる川：茨城県那珂川)

### 『祖父との思い出～水府流水術～』

いつのこと？：小学生のとき  
どこの川？：那珂川

皆さんは水府流水術なるものをご存じだろうか。水府流水術とは、日本在来の游泳術（日本泳法）として日本水泳連盟から公認されている13の流派の一つである。水戸藩藩主だった頼房公、光圀公は泳法の鍛錬を重視しておりこの二人の藩主の下で発達していった。また、それまで武士のみに教えていた水術を庶民の身を守るため一般にも広めるように命じたのが、光圀公ともいわれている。

水府流水術は、一般に「のし」という呼び名で定着し、泳法は横体のほかにも平体・立体・潜水・浮身などがある。先手を搔く上町流は元禄年間に島村孫衛門正広が指南し、先手を伸ばしたままにする下町流は小松郡蔵、荷見守壮が指導していた。江戸時代後期に水戸藩9代藩主である斉昭公が弘道館を開くと、二つの流派を水府流水術として統一し、武術の1科目として奨励した。明治期以後は再び「上町」「下町」の二系統にわかれて広く普及していたが、現在は昭和45年に一本化し、両系統で組織した水府流水術協会が水戸市指定無形文化財の保持団体として伝承・普及に努めている。

何故いきなり水府流水術について説明したのかというと、なんとこの伝統ある泳法が、実は私にも伝承されていたということが発覚したのである。今回このリレー日記を書く事になり研究室の先輩である坂本さんと何について書くかを相談していたところ、「金子君は水戸出身なんだから水府流水術知ってるんじゃないの？」と言われた。確かに“水府”という言葉には聞き覚えがあった。私の通っていた高校の裏には那珂川が流れており、そこに架かる橋の名前が“水府橋”だったのだ。そして私はピンと来た。水府流水術は、昔祖父に教わった“伸し泳ぎ”のことに違いないと。

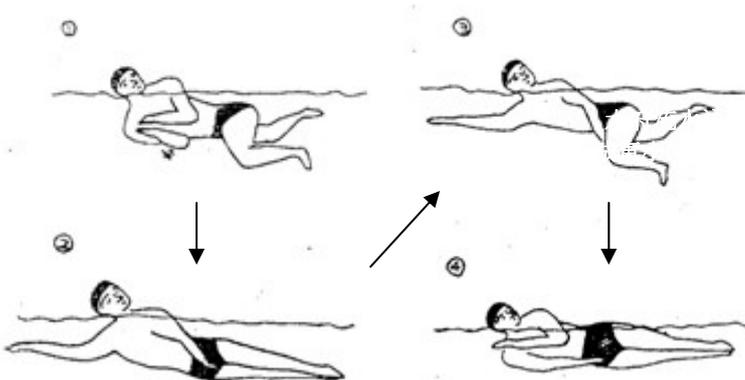
あれは、小学校低学年の夏休みに祖父と妹と3人で近所の市民プールに行った時のことだった。プールではしゃぐ私と妹を見ながら祖父が何気無くした泳ぎこそが水府流水術だった。水の流れに逆らわずぷかぷかと浮きながら泳ぐ祖父の姿を見て興味を示した私は、祖父にこの不思議な泳ぎが何なのか聞いてみた。すると祖父は、「なんだ、貴洋は“伸し泳ぎ”のこと知らねえのか？水戸藩のお侍さん達はみんな

なこうやって泳いでたんだぞ」と言い、泳ぎ方を教えてくれた。私の中を流れる水戸人の血がそうさせたのか、すぐに泳ぐことができるようになった。伸し泳ぎは、速く泳ぐことこそ出来ないものの、ゆったりとした動きなのでそれほど疲れず長く泳ぎ続けることが出来た。それからというもの、プールに行ったときには伸し泳ぎをするようになった。とにかく楽なのだ。それに顔は水中から出したままで良いので友達としゃべりながら泳ぐことが出来る。顔を出したままにするのは、日本泳法が元々海や川での戦闘、あるいは護身のための泳ぎであったことに由来しているのだろう。こうして、私にも無事に水府流水術の伝統が伝承されたのだった。ついでに母親にも伸し泳ぎを知っているかメールで聞いてみたところ、「ああ、水府流水術ね。夏休みとかにあんた達をプールに連れてったとき私も泳いでたよ。」と即答され、金子家内での想像以上の認知度の高さに驚いた。母親は小学生の時に先生の中に伸し泳ぎができる方がいて授業で教わったとのことだった。

家族内の認知度の高さに驚きつつ、江戸時代から現在に至るまで水府流水術はどうやって地域の人々に引き継がれてきたのか、また現在でも過去の文化を引き継ぐ場はあるのかを調べてみた。かつて藩内には数か所の道場があり全国にプールが普及した昭和の中頃まで栄えていたそうだ。もしかすると祖父もかつて那珂川で伸し泳ぎをしていたのかもしれない。また、前ページの写真の道場跡は水府橋の近くにあるもので、今でも近くの小学校では水府流水術の講習会が開かれているらしい。

今回リレー日記を任されるに当たり、自分には果たして川と関わった思い出はあるのかととても不安を感じていた。しかし、この日記のおかげで小学生のころに祖父と過ごした思い出を振り返ること、郷土の文化について知ることが出来た。自分の郷土に江戸時代から現在まで伝わる文化があることはとても誇らしく感じる。これからは自分も伝える側の人間になっていけたらと思う。

※水府流水術にはいくつか種類が存在するが、自分に伝承された形は以下のものに近かった



継手伸し (つぎてのし)

- ①図のように足を縮め、両手を胸の前あたりで揃える
  - ②下の手を先に伸ばし、水を煽りながら足を真っ直ぐにする
  - ③下の手で身体の下を強くかき、上の手は水面と平行にして前に伸ばす
  - ④上の手で身体の前をかき
- 足は手を一回かくごとに一回あおり、①～②～③～④と動作を繰り返す

(安房泳法会日本古式泳法 図解より)

(次は小沼良輔さんにバトンを託します)



大学のプールにて実践！！  
(上図①の段階)



大学のプールにて実践！！  
(上図②の段階)